

第17話「反対意見も言い方しだい」

課題	反対意見が言えない
ストラテジー	相手の意見を認めてから、自分の意見を言う
効果	- 相手の意見への共感を示すことができる - 反対意見を言うときに、相手を攻撃しているような印象を避けることができる

<課題>

反対意見が言えない



過労で倒れてしまったスアンは、太田から、スアンが取り組んでいた秋の行楽キャンペーンの仕事は他の人をお願いしてしばらく休んだ方がいいと言われました。それを聞いたスアンはとても残念に思いましたが、太田にその仕事を続けたいという自分の思いを伝えることができませんでした。太田の決めたことに反対するようなことを言ったら、太田が気を悪くするかもしれないと考えたからです。

<ストラテジー使用場面>



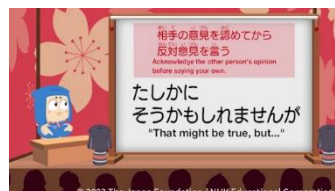
太 田：一度に新しいことを2つやるのは大変だし、今はホール係に専念すべきじゃない？

スアン：たしかにそうかもしれませんが、私…どうしてもやってみたいんです。企画を考える仕事。（中略）だからお願いします。秋の行楽キャンペーン、やらせてください。

太 田：そうね…。

<スアンが使ったストラテジー>

相手の意見を認めてから、自分の意見を言う



スアンは、「たしかにそうかもしれませんが」と言う前から、太田の意見に対する反対意見を言いました。

<どんなストラテジー？>

このストラテジーは、相手の意見に対する反対の意見を言うときに、まず相手の意見への共感を示してから反対意見を言うストラテジーです。相手の意見に対する反論は、時に攻撃的に聞こえてしまうことがあります、「たしかにそうかもしれませんが」と言ってから反対意見を言うことで、「あなたの意見は自分の意見とは違うが理解はできる」といった共感の態度を示すことができます。何も言わずに反対意見を言うより、相手も自分への配慮を感じて、穏やかな気持ちで反対意見を受け止められる可能性が高くなります。

<どうやって使う？>

使い方は難しくありません。相手の意見に対する反対意見を言う前に「たしかにそうかもしれませんが、」を付けるだけです。ただし、どのような言い方をしてもよいというわけではありません。相手への配慮がよりよく伝わるように、自分なりに穏やかな言い方になるように心掛ける必要があります。スアンの言い方を参考にしてみましょう。

同じようなストラテジーは『まるごと 日本のことばと文化 中級1 B1』でも取り上げられています。

A: 何十巻もあるんでしょ？ ちょっと長いかもねえ。

B: たしかに長いかもしれませんが、セリフが少くないからだいじょうぶですよ。

『まるごと 日本のことばと文化 中級1 B1』(p.139)より

この表現のように、相手の話の一部を引用すると、どの部分に対して反論しているのかがはっきりします。

<もう一歩> 反対意見を言うのに「共感」が必要なのはなぜ？

『まるごと 日本のことばと文化 中級1』で同じようなストラテジーが取り上げられていることを紹介しましたが、ほかにも同じようなストラテジーを取り上げている日本語会話のテキストは少なくありません。このことから、相手への共感を示しつつ意見を言うことが大切だということがわかります。では、なぜ反対意見を言うときに「共感」が必要なのでしょう。

有名な Brown & Levinson(1987)のポライトネス理論をもとに考えてみましょう。ポライトネス理論では、人間にはみな、面子(めんつ、face)というものがあり、その一つに、自分の領域にむやみに踏み込まれたくないという欲求に基づく面子(ネガティブフェイス)があるとしています。李(2001)は、反対意見の表明は、聞き手の意見や行動を規制するもので、Brown & Levinson(1987)の言う、面子を脅かす発話行為で、対人関係の維持や破綻に大きく関わると予測されるものだ(p.20)と述べています。だからこそ、反対意見を直接言うのではなく、一旦共感を示すことで、相手の面子を強く脅かさないように、配慮が必要なのでしょう。

話し合いの際に、自分の意見に対する反対意見を言われたり、逆に、他の人の意見に対して反対

【ストラテジーの解説】#17

意見^{いけん}を言^いったりすることをどの程度^{ていど}気^きにするかは、文化^{ぶんか}によっても、人^{ひと}によっても違^{ちが}いがあると思^{おも}います。ただ、今^{こん}回のストラテジーが多^{おほ}くの日本語^{にほんご}テキストにと^とりあ^あげられていることから、日本語^{にほんご}の会話^{かいわ}では、反対^{はんたい}意見^{いけん}を言^いうことは配慮^{はいりょ}が必要^{ひつよう}なコミュニケーション^{コミュニケーション}の一つ^{ひとつ}だと言^いえます。このよう^{よう}なコミュニケーション^{コミュニケーション}スタイルについて、他^{ほか}の人^{ひと}はどう考^{かんが}えるか聞^きいてみるのもおもしろいと思^{おも}います。

<参考>

国際交流基金^{こくさいこうりゅうききん}(2016)『まるごと 日本^{にほん}のことばと文化^{ぶんか} 中^{ちゅう}級^{きゅう}1 B1』三修社^{さんしゅうしゃ}

Brown, P. & S. C. Levinson (1987) *Politeness: Some Universals in Language Usage*.

Cambridge: Cambridge University Press. (2011) 田中典子^{たなかのりこ} 監訳、斉藤卓智子^{さいとうさちこ}・津留崎毅^{つるさまたけし}・

鶴田庸子^{つるたようこ}・日野壽憲^{ひのひさのり}・山下早代子^{やましたさよこ} 訳『ポライトネス—言語使用^{げんごしよう}におけるある普遍現象^{ふんぺんげんしやう}』研究社^{けんきゅうしゃ}

李吉鎔^{い きりようん}(2001)「日・韓両言語^{にっ かんりやうげんご}における反対^{はんたい}意見^{いけん}表明^{ひやうめい}行動^{こうどう}の対照^{たいしやう}研究^{けんきゅう} : 談話構造^{だんわこうぞう}とスキーマ^{ちゆうしん}を中心として」
『阪大日本語研究^{はんだいにほんごけんきゅう}』13、pp.19-32.